

所 属	農学生命科学部 地域環境工学科	氏 名	加藤 幸
課題名	特種水田における地域資源（セリ・ワサビなど）の生育・栽培環境の分析とブランド化の可能性について		

### 1. 概 要

田んぼは、お米を生産するだけでなくセリやワサビなどの地域資源を生産する場所にもなります。この場合の田んぼは、お米を作る水田と区別し「特殊水田」と呼ばれます。青森県には、特殊水田で栽培される貴重な地域資源を数多く有しています。これらの資源は長い歴史や伝統を持っている反面、慣行的な営農が行われて場合が多く、栽培方法や生産基盤について必ずしも十分な調査が行われていない実情があります。

この研究ではこれらの特殊水田で栽培される地域資源のうち北限の栽培セリである「一町田セリ」と岩木山麓で栽培される「ワサビ」に着目し、栽培環境を調査するとともに、他の優良産地との連携から新たなブランド化の可能性を探ります。

#### (1) 一町田セリの栽培環境とその生育・収量特色

2017年度より「岩木山の見えるぶどう畑」、「山田農園」の支援を受け一町田地区のセリ田にモニタリング装置を設置し、気象・土壌環境、セリ田の水管理について調査しています。同時に優良産地である宮城県名取市の仙台セリの生産農家と連携し、産地間連携および両産地のセリの栽培・生産環境の比較を進めています。これまでに、気象条件・水温と水管理の関係性、水管理とセリの生育状況の関連、仙台セリとの生育・収量特性について明らかにしています。

今後、これらの調査を継続し現象の再現性を確認すると同時に、水温管理した状態でのセリの栽培実験や水源の水質調査などを実施し、一町田セリの品質改善や歩留まりの向上に寄与していければと思います。

#### (2) 岩木山麓ワサビの栽培環境

ワサビの産地としては静岡や長野などが有名ですが、青森でも白神山地及び岩木山麓でワサビを生産する農家があります。このワサビは、市場でも高い評価を受けていますが、生産が足踏みが続いている現状にあります。

本研究では、岩木山麓の生産者の協力を得ながらワサビの栽培環境およびワサビ田の構造について調査を進めています。特にワサビは水温・水質との関連が深いことから、水源の水質調査(pH、カルシウム、カリウム)を進めています。同時に対照事例として、秋田県藤里町および静岡県伊豆市のワサビ田でも同様の調査を進めています。

また、ワサビは一般に、重金属を集積し易い傾向にあるといわれていることから、今後、安全安心な生産環境整備のため、産地ごとの重金属成分の集積傾向などを調査する予定にしています。



図 1



図 2

2. 画像の説明

- 図 1 一町田地区のセリ田の様子
- 図 2 岩木山麓におけるワサビ栽培の様子